

特集
1

広報しきがリニューアル

よりわかりやすく、情報をお届けします

問合せ／秘書広報課 内線2009

より愛される広報紙を目指し、『広報しき』の表紙や裏表紙、特集コーナーなど一部のページをカラー化しました。

今回のリニューアルを機に、これまで以上に市民の皆さんに手にとって読んでいただける『広報しき』を目指して、志木市の「大切な政策」、「まちの活気」、「魅力的な人」を中心に紙面の充実を図り、よりわかりやすくお伝えします。

表紙で振り返る『広報しき』



No. 549

平成28年5月1日発行
一部カラー・2色刷り
A4判 34ページ

表紙や裏表紙などのカラー化にあわせ、紙面構成やレイアウトの見直しを実施しました。



No. 516

平成25年8月1日発行
2色刷りA4判 26ページ
余白を意識した、シンプルなレイアウトに変わりました。平成28年4月号まで続いたスタイルです。



No. 237

平成2年5月1日発行
2色刷りA4判 18ページ
市制施行20周年を迎える平成2年に、1色刷りから2色刷りになりました。



No. 208

昭和63年12月1日発行
1色刷りA4判 18ページ
表紙を飾った宝幢寺の鐘撞堂が、県広報コンクールで、入選を果たしました。



No. 115

昭和55年4月1日発行
1色刷りB4判 16ページ
昭和55年からの約7年間は、B4判の大きなサイズで発行していました。



No. 1

昭和45年11月1日発行
1色刷りB5判 8ページ
市制が施行され、「志木市」がスタートしたことを紹介しました。

ここが変わった!

広報しきのリニューアルポイント

このマークが
目印です!



表紙や裏表紙が カラーになります。

表紙・裏表紙をカラー化し、より愛される広報紙を目指します。
また、政策など市からのお知らせは表紙から、公共施設情報やイベント情報は裏表紙からと、掲載された情報が探しやすく、読みやすくなりました。

まちのできごとを カラー写真で お届けします。

これまでも「フォトポットコーナー」としてお伝えしていましたが、今後は「まちのできごと」として、臨場感あふれるカラー写真で、まちのにぎわいをお伝えします。

AR(拡張現実)を 導入します。

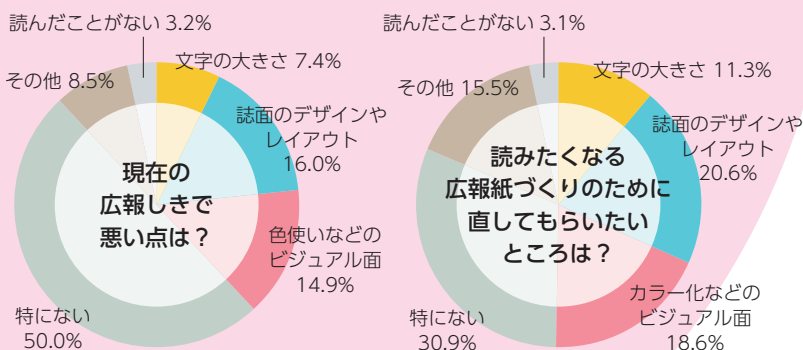
スマートフォンやカメラ付きタブレット端末をかざすと写真が動き出す、AR(拡張現実)サービスを導入しました。
写真だけでは伝わりにくいイベントの様子などを動画で楽しむことができます。32ページでARを体験することができますので、ぜひお試しください。

皆さんの声を反映

『広報しき』をより読者ニーズに沿ったものとするため、市政モニターの皆さんへのアンケート調査を実施しています。

この調査から、「読みたくなる広報紙づくりのために直してもらいたいところ」として、紙面デザインやカラー化などのビジュアル面との回答が約40%、「現在の広報しきで悪い点」として、紙面デザインやビジュアル面との回答が約30%ありました。

調査結果などを踏まえ、『広報しき』の一部をカラー化することで、紙面にメリハリをつけたり、強調したい部分をはっきりさせたりすることができるほか、カラー写真を生かした紙面づくりが可能となると考え、この度のリニューアルを実施しました。市政や暮らしに関する情報を効果的に伝えるために有効に活用し、市民の皆さんにより親しまる、わかりやすい紙面づくりを目指します。



経費の抑制

カラー化については、経費を極力上げないことを前提に、他市の状況調査や市政モニターへのアンケートなどを行いました。

その結果、一部カラー化への対応として、とじ穴の廃止をはじめとする印刷工程の見直しなどによる経費削減に努めました。

また、近年、市からの政策的なお知らせや暮らしに関する情報など、伝えなければならない情報が増加傾向にあることから、ページを増やすことにしました。

さらに、財源確保の観点から、有料広告の掲載枠数も増やすことで、リニューアル後の『広報しき』の印刷にかかる経費が、従来に比べて大きく増加しないよう配慮しました。

1ページあたり契約単価の平均で比較すると0.1円上昇するものの、
広告枠数拡大と、とじ穴の廃止により、
約150万円を捻出

歳入確保策

有料広告枠数の拡大で、
財源が72万円
(予算ベース)の増加

経費節減のための見直し

とじ穴を
廃止することにより、
約74万円の経費を削減